

追悼文：蔵敷重壽先生の思い出

(都島工業高校時代の様子)

松の木会 1972 年卒 小松賢治
(元 都島工業高校教諭) 2025.6.3.記

蔵敷先生は、北海道の体感「吹雪は下から吹き上がる」と話され、大阪で就職され都島第二工高卒業後赤川の大阪市共同実習所の技術員として大阪工業大学二部を卒業され、昭和 43 年に歴史と伝統があり昭和 4 年に昭和天皇が臨幸された大阪を代表し「天下の都工」と呼ばれた大阪市立都島工業高校に赴任されました。

(写真 1.は、昭和天皇の臨幸記念碑：大阪市立都島工業高校の正門横に設置されている。)

機械科での担当は産振設備の管理や機械製図、旋盤実習等を担当し、卓球部の顧問も務められました。当時の授業は、大学教授のような先生方が多く高度な講義内容（微積分も含む）でしたが、生徒指導は口頭の連絡だけで「やっておけ」「○○に集合」などの指示を出すだけでしたが、生徒たちはきちんと従っていたとのこと。遠足や工場見学も、生徒は学生服、先生はスーツ姿で六甲山や金剛山へ登るなど、スケジュールの説明もなく「ついて来い」と歩き出すシンプルなものであったそうです。また蔵敷先生の機械製図のテスト（資料参照：末尾に添付）は非常に難しく、一緒に担当していた教員も書けないほどで、結果のほとんどが 10 点台とのことでした。

在職時の最大の功績は、老朽化した機械科別館の実習室の近代化に向けて基本設計プランを担当し、夜遅くまでレイアウト図面を製作されたことです。



写真 1.